

得意と苦手は表裏一体

平成30年度の長町中学校の生活が始まって、3週間が経過しました。4月は年度の始まりという事もあり、中学生だけではなく、多くの人々が気持ちを新たにスタートする時期です。前向きに取り組もうと気持ちを張り詰めていた皆さんも、そろそろ疲れが出始める時期ですよね。人間はずっと緊張した状態を継続する事はできないので、自分なりの気分転換が必要です。「保健日より」に、リラックスする事の大切さが掲載されていますので、是非読んでみてください。

さて、どの学年も授業が本格的に始まりました。授業の様子を見ていても、皆さんの真剣さが伝わってきます。中学校では、9教科を学習し、道徳や総合的な学習の時間、学級活動の時間、そして部活動等が行われています。学校の活動を通して、少しずつ、時間を掛けて自分の持ち味が理解されてくるとよいと思います。また、「これは得意だな」とか、「少し苦手だな」とか、時間の経過とともに意識されてきます。

私は、高校時代に国語の先生に「得意と苦手は表裏一体、苦手だと思っていた事に実は能力が隠されていたりするんだよ。」と言葉を掛けていただきました。とても嬉しく思った気持ちを今も忘れることができません。

小学校4年生の時に国語で作文を書いて提出したときの事でした。詳しくは書き切れませんが、「自分は作文が苦手なんだ」という気持ちにさせられる出来事があり、それ以来、「作文を書くのが怖い」という時期が、しばらくの間続きました。「できれば作文を書きたくない」「お願いだから作文の宿題を出さないでほしい」と思っていました。ずっと長い期間前向きになれませんでした。

高校1年生の夏休みに、読書感想文の宿題が出されました。とても憂鬱でしたが、偶然夏休みに見た映画に感動し、その原作を読んで読書感想文を書きました。「あの空に太陽が」という実話を基にした小説でした。読書感想文を書いたというより、映画で感動したシーンをそのまま文章にしたのだと思います。自分としては開き直って「まあいいや、頑張ってるのだからとりあえず出そう・・・。」そんな気持ちだったと思います。その読書感想文を国語の先生が褒めてくれた事に、すごく驚きました。自分の発した言葉はあまりよく覚えていませんが、多分「作文が苦手だと思っていました。」などと先生に話しかけたのだと思います。その時、先生が「得意と苦手は表裏一体、苦手だと思っていた事に実は能力が隠されていたりするんだよ。」と語りかけてくれました。長い期間苦しんだ呪縛から解放されたような気がしました。

人間には様々な能力があり、発揮されないまま眠っているのだと思います。自分で気が付いたり、人から導かれたりして発揮されるのでしょう。しかしながらその能力が、必要だと思っている時に発揮できなかつたり、努力してもなかなか成果が出なかつたりする事で苦しんだり、不安になつたりする事がありますよね。未来は見えないので、これから起こる事が分からず、見通しが立ちません。だから起きていない事に不安を覚えたり、起きてもない事に恐怖を感じたりするのは大人も同じです。出来るのは、「よい準備をする事」だと思います。過去に起きたことは変えられませんが、未来に起きるかもしれない事は「準備する事」によって創り出せる可能性があります。不安や恐怖の正体は「起きていない事を心配する心」なのかもしれません。ちょっとした準備で心も変わっていくのかもしれないですね。